

国土交通省 川の防災情報
<https://www.river.go.jp/index>
 洪水予報等、避難情報、被害情報
 川の状況：観測所の水位や画像を表示
 現在の河川の状況を撮影した
 ライブカメラ画像 他

水害リスクライン
<https://frr.river.go.jp>
 観測又は計算した河川水位などの
 データ等をもとに、区間ごとの洪水の
 危険度がわかるサイト

防災情報(気象庁)
<https://www.jma.go.jp/bosai/>
 都道府県・市町村ごとの防災情報

**ハザードマップポータルサイト
(国土地理院)**
<https://disaportal.gsi.go.jp/>
 全国の自治体のハザードマップ

浸水ナビ(国土地理院)
<https://suiboumap.gsi.go.jp/>
 浸水想定区域の詳細な情報

出典：土器川直轄河川改修事業 事業再評価資料(令和2年11月)

洪水発生年月日	発生原因	蔵川橋地点 ピーク流量 (m ³ /s)	川奥地点 6時間雨量 (mm/6hr)	被害状況
昭和24(1949)年7月28日	ヘスター台風			県下床上浸水10戸、床下浸水243戸
昭和29(1954)年9月13日	台風13号			県下死者1人、被災者2,180人
昭和47(1972)年9月16日	台風20号		155	土器川:護岸崩壊7ヵ所 県下床上浸水1,344戸、床下浸水8,764戸
昭和50(1975)年8月23日	台風6号	約1,020 (戦後第2位)	211	土器川:護岸崩壊23ヵ所(内、河岸侵食7ヶ所) 溢水ははん濫・乙井橋流出
昭和51(1976)年9月12日	台風17号	約480	73	土器川:護岸崩壊12ヵ所(内、堤防侵食1ヶ所) 右岸14k・9付近の堤防断面の約50%が侵食 県下床上浸水4,513戸、床下浸水16,864戸
昭和54(1979)年9月30日	台風16号	約800	239	土器川:護岸崩壊2ヵ所、局所洗掘1ヶ所 県下床上浸水33戸、床下浸水2,178戸
昭和54(1979)年10月19日	台風20号	約420	74	土器川:河岸侵食 県下床上浸水2戸、床下浸水748戸
昭和62(1987)年10月17日	台風19号	約450	134	土器川:護岸崩壊13ヵ所 県下床上浸水3,458戸、床下浸水15,007戸
平成2(1990)年9月19日	台風19号	約1,010 (戦後第3位)	232	土器川:護岸崩壊8ヵ所 溢水ははん濫2ha 野津津立橋床工被災支川:床上浸水79戸、 床下浸水160戸
平成9(1997)年7月26日	台風9号	約590	151	土器川:護岸崩壊4ヵ所 県下:床下浸水5戸
平成13(2001)年8月21日	台風11号	約630	122	土器川:護岸崩壊8ヵ所 県下:床上浸水1戸
平成16(2004)年9月30日	台風21号	約590	121	土器川:護岸崩壊2ヵ所県下:床上浸水46戸、 床下浸水240戸
平成16(2004)年10月20日	台風23号	約1,040 (戦後最大)	171	土器川:護岸崩壊2ヵ所、溢水ははん濫0.2ha、 満濃大橋橋脚周辺洗掘支川:床上浸水75戸、 床下浸水142戸
平成17(2005)年7月2日	梅雨前線	約670	162	土器川:護岸崩壊2ヵ所 県下床上浸水7戸、床下浸水436戸
平成23(2011)年9月2日	台風12号	約640	59	県下:床上浸水18戸、床下浸水372戸
平成29(2017)年9月17日	台風18号	約530	150	土器川:河岸侵食・根固流失3ヵ所



昭和50年の台風6号は、9月23日未明に四国東部に上陸した雨台風。各地に甚大な被害をもたらし、香川県下でも1700世帯が浸水、被害総額は93億円となった。写真は河口付近まで泥水が押し寄せている状況と、垂水橋から上流の写真の様子より、いったん荒れ狂った土器川の怖さの片鱗がうかがえる



垂水橋から上流の様子



河口付近の様子



写真1~4:新しい潮止堰の建造過程。銅製のゲートを起こしたり倒したりして、堰の高さを調節する仕組み
写真5:昭和54年に作られた旧潮止堰。堰の部分は、巨大なゴム製。内部に空気を送り、膨らませたり、萎ませたりして堰の高さを調節

飯野山

高松自動車道

上 土器川

青ノ山

国道11号

丸亀城

←JR宇多津駅

蓬萊橋

JR予讃線

さぬき浜街道

土器川

JR丸亀駅→

みなさんは「土器川」といえる何を思い浮かべますか？河川数でのサッカーや野球、犬の散歩、または毎年10月の田潮八幡宮例大祭「水浴び神輿」でしょうか。これは神輿を担いだ男衆が土器川に入るもので、五穀豊穡を願うお祭りといわれます。

また、土器川の河川敷には多くの公園があります。それぞれの公園で行われるイベントに参加したり、小学校の校外学習で行ったことがある人も多いと思います。

こうして土器川は昔から丸亀市民に親しまれてきましたが、その一方で近隣に大変な災害もたらしてきました。

土器川は、古来より豪雨の度にはん濫を繰り返す暴れ川でした。川の勾配は急で、洪水は一気に河口まで流れます。しかも、下流部の家屋や田畑の地盤高さよりも洪水時の土器川の水位が高い位置にあります。そのため普段雨の少ない時は極端に水が少なく渇水被害が頻発する半面、梅雨時期や台風期には洪水が起こりやすく、はん濫が発生すれば浸水被害は広範囲に及ぶという二面性を持っています。

て起こる被害のこと。塩分によつて農作物は枯れたり根腐れを起こしたりします。

付近の農業用水は土器川から引いており、かつては海水の逆流で農業用水に塩分が混ざることによって塩害が発生していました。そして今から49年前(昭和47年・48年)、夏の「高松砂漠」と言われた干ばつと異常な高潮が重なって塩害が生じ、丸亀市上水道の取水にも甚大な被害が発生しました。

完成してから40年、土器川潮止堰は塩水の遡上を防止することによって農業用水などの利用を塩害から守り続けてきました。しかし近年老朽化が進み、機能の維持が難しくなってきました。そこで平成30年より新築工事が始まり、この6月には新しい「土器川潮止堰」が完成します。場所は蓬萊橋の東側を南に300mほど上ったところ。普段通りかかる人は「何の工事だろう?」と気になっていたかもしれませんね。

土器川は一級河川で、国土交通省の管轄で整備が行われています。この潮止堰も含め、土器川に関する取

今後は氣候変動の影響により、これまでになかった大雨や台風の激化も考えられます。特に河口付近は丸亀市街地を流れるため、ひとたび堤防の決壊が起きれば想定されるはん濫被害は甚大なものになるかもしれません。

私達にできるのはまず「知ること」です。この土器川のことを知ってこそ「正しく恐れる」ことができ、自分達の命や財産を守るための確な対策が取れるのではないのでしょうか。災害情報や避難経路、または持ち家や賃貸住宅にかけている火災保険の確認など、今一度家族会議してみてはいかがでしょうか。

繰り返される災害に立ち向かうため、沿川の住民たちは治水事業に取り組んできました。最も古い記録では大正11年7月に香川県によつて土器川の改修工事が着手されたとあります。その後も昭和く平成へと治水事業が進み、家屋の浸水被害などは少なくなっています。

